

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年10月18日(2007.10.18)

【公開番号】特開2006-96707(P2006-96707A)

【公開日】平成18年4月13日(2006.4.13)

【年通号数】公開・登録公報2006-015

【出願番号】特願2004-285262(P2004-285262)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/02 (2006.01)

A 6 1 K 8/30 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 7/00 R

A 6 1 K 7/00 C

【手続補正書】

【提出日】平成19年9月4日(2007.9.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

すなわち本発明は、(1)グリセリンに、薄片状微細結晶からなる管状の塩基性炭酸マグネシウムをゲル化剤として配合することを特徴とするグリセリンゲル状組成物や、(2)管状の塩基性炭酸マグネシウムが、内径0.5~5μm、外径0.5~10μm、長径10~50μmであることを特徴とする上記(1)記載のグリセリンゲル状組成物や、(3)管状の塩基性炭酸マグネシウムを1~30質量%配合することを特徴とする上記(1)又は(2)記載のグリセリンゲル状組成物に関する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0042

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0042】

(比較例7~10)

比較例7~10においては、ゲル化剤として親水性無水ケイ酸(AEROSIL 200 日本エロジール社製)を1.0%、5.0%、20.0%、30.0%を用いた以外は、実施例4~7と同様の方法によりゲル状洗顔料を得た。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0043

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0043】

(比較例11~14)

比較例11~14においては、ゲル化剤として、球状炭酸マグネシウム(神島化学工業株式会社製)を1.0%、5.0%、20.0%、30.0%を用いた以外は、実施例4~7と同様の方法によりゲル状洗顔料を得た。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0048】

表2の結果から明らかなように、管状塩基性炭酸マグネシウムを配合したグリセリンゲル状組成物を用いて調製した実施例4～7のゲル状洗顔料は、比較例7～14のゲル状洗顔料と比較して「高温安定性」、「後肌のきしみ感のなさ」、「泡立ちやすさ」の点で優れており、即ち、サンプル種は手で伸ばしやすく、水又は温水との馴染みがよいことがわかった。これによって、本発明のゲル状製品が、きしみ感がなく、伸びの良さに優れ、高温においても安定であることがわかった。